

八雲町熊石地域地熱開発理解促進事業 ～熊石地域での地熱開発の可能性を！～

東日本大震災後、日本国内では再生可能エネルギーが注目され、太陽光や風力、地熱や木質バイオマスなど全国各地で発電事業が進められています。

熊石地域でも、国からの100%の補助金を受け、平成26年度から地熱開発（発電）の可能性や地域的なメリット、温排水の二次利用の検討や地熱に関する講演会、勉強会、地熱発電所の見学会などを行っています。

平成26年度に八雲町地熱開発理解促進勉強会を組織しました。

○構成員は熊石地域の農業、水産業、商工業などで働いている方々、またはその後継者など40名です。

○地熱発電先進地視察として、秋田県「上の岱発電所」、森町「森地熱発電所」、福島県「土湯温泉」バイナリー発電事業など地熱発電所や温熱利用施設3か所を視察しました。

○勉強会は4回開催し（うち講演会3回）、北大名誉教授 池田隆司氏による「温泉・地熱資源の利活用をめざして：現状と課題」、地質研究所 元所長 藤本和徳氏による「地熱・温泉資源の地域エネルギーとしての利用」、そして、地質研究所資源環境部長 高橋徹哉氏による「熊石地域における地熱・温泉資源調査の経過と今後の展望」～地熱ポテンシャル、地熱開発の可能性はいかに？と題して行われ、全員で研鑽を深めました。

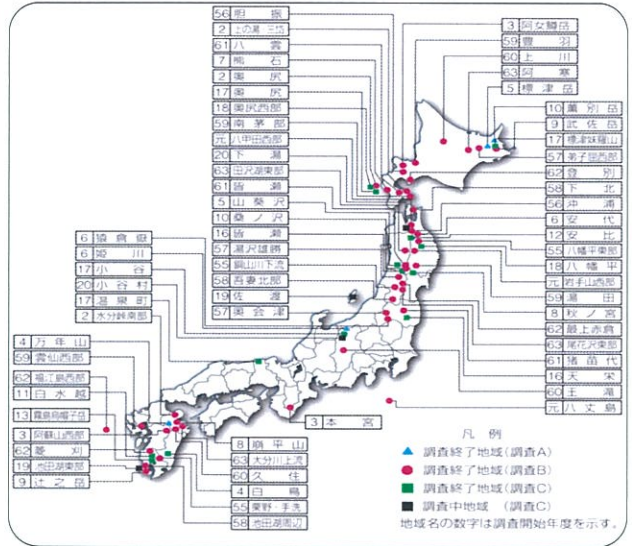
平成26年度の事業結果は

稼働中の発電所及び温熱利用施設の視察や有識者を講師とする講演会を開催し、勉強会の構成員のほか参加した住民も地熱発電に対する正しい知識と理解が深まりました。

有識者からは、熊石地域には熱源は豊富にあるが地下への浸透水が少ないため、大規模なフラッシュ発電の可能性は低いということが報告されました。

このため、平成27年度は、熊石地域でのバイナリー発電事業の可能性や温泉の2次利用も含め、更に話し合うことになりました。

平成26年度の総事業費は5,006千円で、内訳は主に講演会を含むコンサルタント委託料のほか、先進地の視察旅費などです。



「地熱開発促進調査位置図」出典：新工社キー・産業技術総合開発機構(NEDO)

地熱開発理解促進事業とは

経済産業省が地熱発電を全国に拡大するために、地域の理解を得る・促進する取り組みに対して、補助金（100%国費）を交付する事業であり、今年度は全国で熊石を含む48件が採択されました。



地質研究所 高橋徹哉部長氏による講演会



秋田県湯沢市 東北電力「上の岱発電所」